ワークショップ実施結果報告書（概要版）

資料1-2

1.開催概要

- 2024年の8月、9月に計4回開催しました。（9/1開催予定は台風10号の接近に伴い中止）
- 5人程度の班に分かれ、設定されたテーマについて話し合い、発表・投票を行いました。
- 豊田市に居住する外国人を対象としたワークショップも別途開催しました。

開催日程と参加人数

実施日	参加人数
2024年8月28日（水）	AM10名、PM12名
2024年9月3日（火）	AM10名、PM16名
2024年9月14日（土）	13名

2.テーマと進め方

2つのテーマについて、ウェルビーイングの視点から考えました。

テーマ1　豊田市が目指す望ましい将来像

テーマ2　将来像を実現するための環境施策

3.総括

- ✓ 誰もがアクセス、利用できる多様な選択肢を増やす意見やアイデアが多く出た。環境基本計画策定のポイントになる。
- ✓ 長期的で不確実な問題（AI、メタバース、気候変動等）との向き合い方を計画の潜在的テーマとして検討すべき。
- ✓ “ウェルビーイング”の視点から市の既存施策を再評価していくことも必要。

名古屋大学 大学院
環境学研究科
三上 直之 教授

外国人WS意見まとめ

- ✓ 自然の楽しみ方やごみの出し方など、言語の壁が高いため、情報の発信・受信の双方の方法を改善する必要。
- ✓ 各国のコミュニティにおけるSNSなどを積極的に活用して、環境に関する情報を発信できるとよい。

4.ワークショップまとめ

目指すべき将来像

ワークショップ各班の将来像

第1回(8/28AM)

1班
- 人と自然が優しいまち
- 暑さと共存するまち
- 人と車にやさしいまち
- 人と街がすてきなまち

2班
- 自然が豊かで整備された街(道路、公共交通)
- すごしやすい安全な街

第2回(8/28PM)

1班
- 緑豊かでみんなが楽しめるまち
- みんなが住みやすい、人が集まりやすいまち
- 交通の便が良いまち
- 市民と行政が身近なまち

2班
- 車に頼らない街
- 人との関係性のある街
- 経済的に豊かな街
- 自然が豊かな街
- 暑さに対応できる街

第3回(9/3AM)

1班
- 子ども(みらいの子ども)のみらいを大切にするまち
- 自由に移動できるまち
- 子どもが参加する場所・施設・機会があるまち

2班
- 自然豊かなまち
- 人にやさしいまち
- 住み続けたいまち
- 移動しやすいまち

第4回(9/3PM)

1班
- 豊かな自然を守りつつまちなかの緑もたいせつにするまち
- 誰にとっても移動しやすいまち
- 地域の繋がりや活動が活発なまち

2班
- 誰もが移動しやすいまち
- 誰もが働きやすいまち
- 心豊かに安心して暮らせるまち

3班
- 車生活環境の充実　移動手段の多様化
- 新しい豊田市の魅力
- 人の生活に身近な施設が充実している

意見集約結果から設定した将来像

1.豊かな自然と共生するまち
- 自然環境を保全、再生する
- 自然と人の関わりをつくる
- 気候変動や災害に対応する

2.快適に生活し、移動できるまち
- 移動を脱炭素化する
- 人と車が安全に共存する
- 快適な生活環境を整備する

3.地域のつながりの中で持続可能な暮らしが定着したまち
- 資源を大切にする
- コミュニティを元気にする
- 誰一人取り残さない

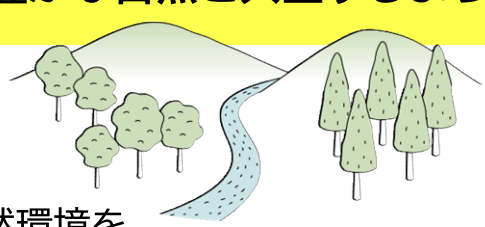
4.地域資源を活かして経済発展していくまち
- 地場産業を持続可能にする
- 市内で経済を循環させる
- 市の新しい魅力をつくる

環境共生　まちづくり　暮らし　地域活性

5.イメージ図

「目指すべき将来像」と「実現するための環境施策」イメージ

1.豊かな自然と共生するまち



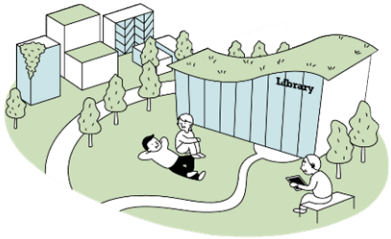
自然環境を
保全、再生する

自然と人の
関わりを
つくる

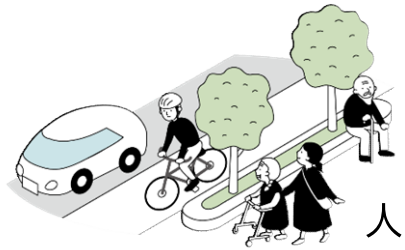
気候変動や
災害に対応する

2.快適に生活し、移動できるまち

移動を
脱炭素化する



快適な生活環境を
整備する



人と車が安全に共存する

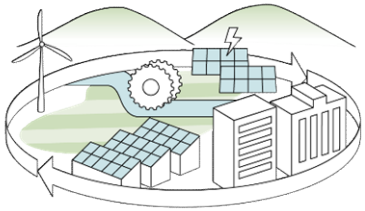
3.地域のつながりの中で、持続可能な暮らしが定着したまち

資源を
大切にする

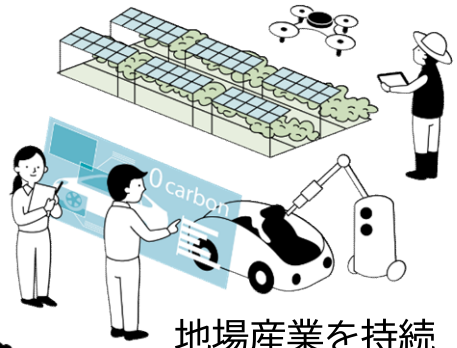
コミュニティを
元気にする

誰一人取り残さない

4.地域資源を活かして経済発展していくまち



市内で経済を循環させる



地場産業を持続
可能にする

市の新しい魅力をつくる